

令和5年度北区政策提案協働事業報告書

令和6年12月

地域振興部地域振興課

目 次

第1章	政策提案協働事業の制度について	
1.	政策提案協働事業の概要	1
2.	募集事業の流れ	2
3.	事業募集について	3
第2章	実施事業の概要	
1.	起業するなら北区！起業副業はじめの一步サポート事業	4
2.	銭湯を核とした地域コミュニティ再生とまちづくり	26
第3章	政策提案協働事業の評価について	
1.	評価の目的	67
2.	事業の評価方法	67
3.	評価項目	67
4.	評価の流れ	67
5.	事業の実施主体による評価	68
6.	選定委員会による評価	74

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の地域課題の解決に向け、新たな視点で提案団体と区が取り組むことのできる事業です。

事業経費のうち区が負担する額は、年間300万円を上限とします。

この事業費は提案団体と区の双方の経費になり、その割合は提案団体と主管課とのヒアリングの際に検討します。

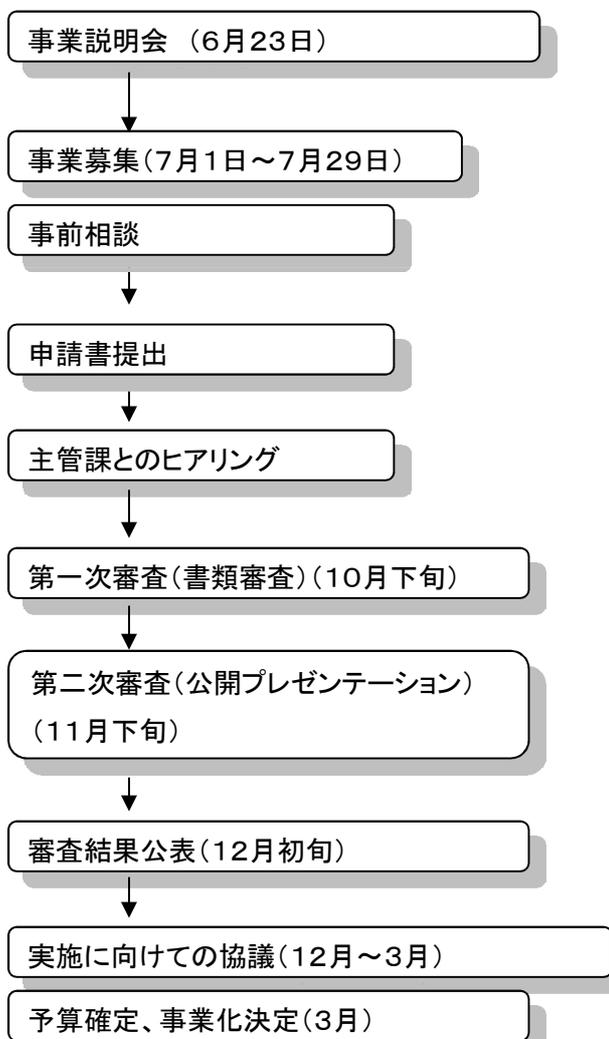
事業を継続する場合の区が負担する事業費については、2年間の事業の場合は計500万円、3年間の事業の場合は計650万円を上限とし、その範囲内で各年度間の区の負担額を決めます。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

令和4年度は、3事業の応募があり2事業が選定され、令和5年度に実施しました。

2. 募集事業の流れ

【令和4年度】



【令和5年度】



【令和6年度】



【事業説明会(自由参加)／事前相談】

事業概要や提出書類について説明します。

2日で3回実施しました。

また、事前相談では申請書の書き方などの相談を受け付けます。

【申請】

申請事業に関する書類(所定の書類)や団体に関する書類(名簿や規則など)を提出。

【ヒアリング】

主管課と事業化に向けて協議を行っていただきます。より実現性の高い事業となるよう事業内容の詳細を検討していきます。

【審査】

北区協働地域づくり推進事業選定委員会を対象事業を審査します。

【公表】

事業概要や団体名を公表します。

【実施に向けての協議】

事業実施に向けて、主管課を交えたワークショップ等を行い、具体的な協議を進めていきます。

【経過報告】

四半期ごとに事業執行状況報告書を提出。

【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

3. 事業募集について

(1) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	① 事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	② 事業手法に独自性、先駆性等提案団体の特性が認められるか
	③ 適切な役割分担となっているか
	④ 提案事業は実現可能か
	⑤ 協働で取り組むことによる事業効果を認めることはできるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	① 提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	② 提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③ 提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることはできるか
	④ 事業内容に整合性が認められるか
	⑤ 協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥ 総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

(2) 選定事業

	事業名	団体名
1	起業するなら北区！ 起業副業はじめの一步サポート事業 (R5 年度～R7 年度)	特定非営利活動法人彩結び
2	銭湯を核とした地域コミュニティ再生 とまちづくり (R5 年度～R7 年度)	一般社団法人せんとうとまち

第2章 実施事業の概要

1. 起業するなら北区！起業・副業ははじめの一步サポート事業

提案団体 特定非営利活動法人彩結び
主管課 産業振興課 経営支援係

(1) 団体概要

「誰もが自分らしく彩どり豊かな人生を歩み協創する社会」を目指して、その人の彩(いろ=強みや課題)によって社会や人とのつながりが生まれる場と機会の提供と、その為の施設運営や活動の企画運営を行うことを目的とする。

(2) 事業目的

「創業しよう！」と決断した人にとってはフォロー体制も手厚い北区。しかし「創業しよう！」とスタートラインに立てるのは一握りで、多くの方は、家庭や本業とのバランスに悩み、どれくらいの利益が出るのか？市場の調査をしないとなかなか創業までは進めないのが現状。北区コミュニティビジネスの会議でも、「最初の一步が踏み出しにくい」という課題が出ている。

しかしながら、新型コロナウイルスと共に生きる中で、副業を可能とする会社の増加・リモートワークの増加・「職住融合」への意識改革など、大きな変化があった。また、人生100年時代の到来により、元気でパワフルなシニアも増加している。こういった背景から、「自分の好きなことや得意なことで働きたい」という人が増えており、こういった創業予備軍への支援をしていく。また、創業後数年で廃業してしまう事業主も多いため、創業間もない人の支援も併せて行う。

(3) 事業概要

個別事業①

活動の最初の一步としてチャレンジできる定期的なマルシェの開催をします。

個別事業②

創業を通じて自身のキャリアを切り拓くための勉強会を開催します。

個別事業③

創業を通じて自身のキャリアを切り拓くために大切になる、同志・仲間作りのための交流会を開催します。

(4) 役割分担

団 体： マルシェの企画・運営

創業予備軍・創業間もない人たちのネットワークづくり

主 管 課： ・区内での公的広報

・創業希望者への支援

・創業支援機関やプロジェクトの連携

(5) 事業の決算額

区 分	項 目	金 額 (円)
収入	北区負担金	2,864,000
	団体負担金	39,129
	チャレンジメンバー入会金	359,700
	マルシェ出店料	166,400
	収入計	3,429,229
支出	交通費	64,660
	消耗品費	170,383
	謝礼	83,508
	印刷製本費	40,865
	使用料・賃借料	4,400
	人件費	1,432,000
	委託費	1,102,453
	通信運搬費	4,538
対象外経費	飲食経費	23,122
	対象外人件費	503,300
	支出計	3,429,229

起業するなら北区!
起業・副業 はじめの一步サポート事業
事業報告書

提案団体 NPO法人彩結び
産業振興課 経営支援係

◎NPO法人彩結びの理念◎

誰もが自分らしく
彩り豊かな人生を歩み
協創する社会を

彩り豊かな人生を歩むために妨げになる
1人ひとりの課題をお互いの強みを活かすことで
解決することを目指しています

そのために、彩り豊かな人生とはどんな人生なのか？
自分の彩(強みや課題)を知る機会をつくり
自分らしい人生の目標を見据え、自分の彩を活かし
様々な彩と彩とを結ぶ機会を提供しています

(1) 団体概要 彩結びについて



自分らしく彩り豊かな人生を

(2) 事業目的 申請の背景・彩結びの想い

「創業しよう！」と決断した人にとってはフォロー体制も手厚い北区。でも「創業しよう！」とスタートラインに立てるのは一握りです。当団体理事が参加している北区コミュニティビジネスの委員会(CB)でも、「**最初の一歩が踏み出しにくい**」という課題が出ています。

一方、新型コロナウイルスと共に生きる中で、副業を可能とする会社の増加・リモートワークの増加・「職住融合」への意識改革など、大きな変化がありました。また、人生100年時代の到来により、元気でパワフルなシニアも増加しています。

こういった背景から、「**自分の好きなことや得意なことで働きたい**」という人が増えていますが、**創業予備軍への支援がないことが課題だと感じています。**



(2) 事業目的 申請の背景・彩結びの思い

社会情勢と併せて 今までの彩結びの活動の中から

出産・子育てを機に

「働き方、生き方」の見直しをしキャリアチェンジする女性が多く

その一つの選択肢として

「起業・副業」を視野に活動する方が増えています。

(マルシェ出店やイベント講師など)

北区は創業者をサポートする仕組みが充実しているので創業まではい
かない「私も何かやってみたい」

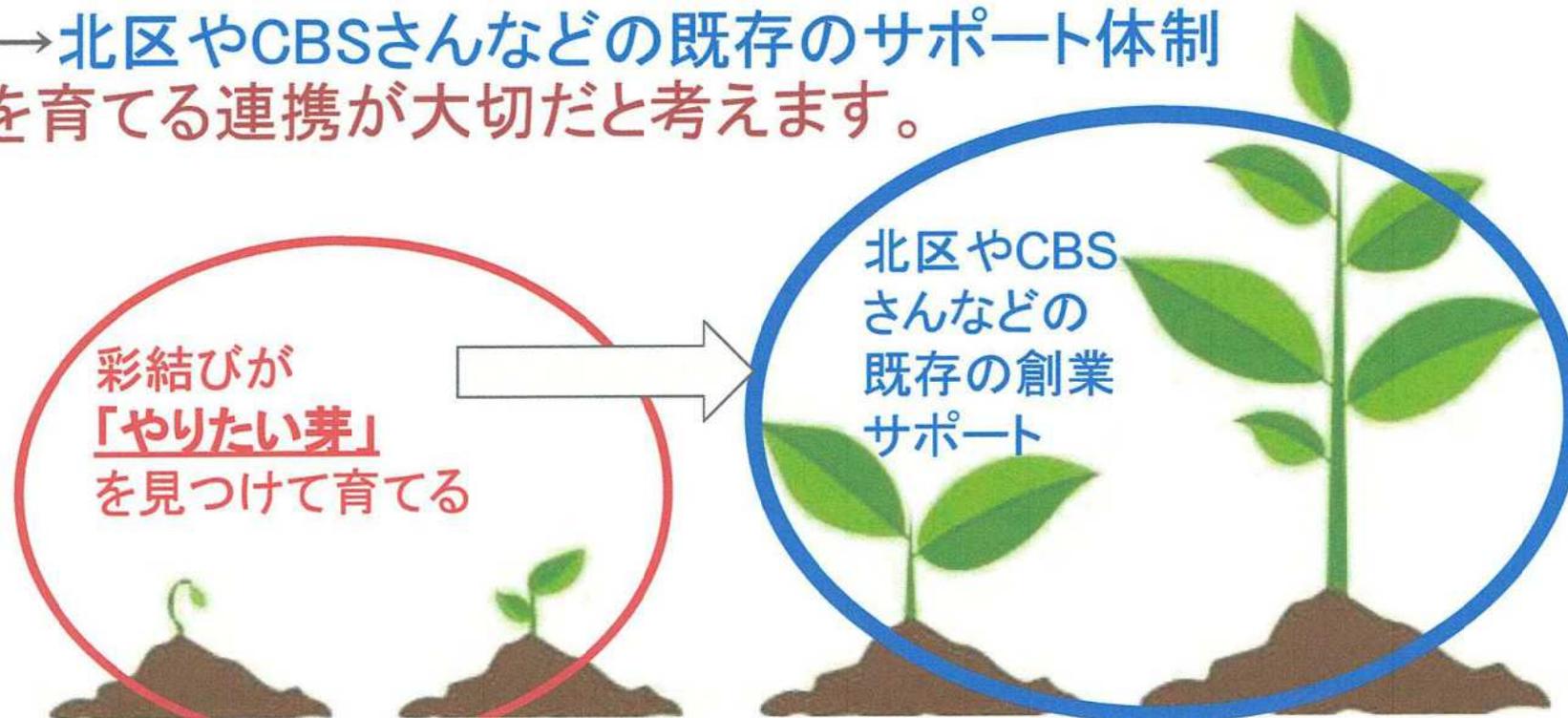
「私も好きなことで社会と繋がりたい、役に立ちたい」と考える女性の
「起業の芽」と出会い、始めるきっかけや創業に繋げるサポートは「彩
結びだからこそできる役割」だと考えています!



(2) 事業目的 申請の背景・彩結びの思い

北区が今後も元気に活動できる区として成長していくには
「創業予備軍」の数を増やし
創業者を増やし、事業継続するサポートが大切だと思っています!

彩結び→北区やCBSさんなどの既存のサポート体制
など芽を育てる連携が大切だと考えます。



(3) 事業概要①

<対象>

北区在住の「自分の好きなことを仕事にしていきたい」と漠然と思っている方(もしくは今後北区を拠点に活動したいと考えている方)

<活動>

個別事業1:
活動の最初の一步としてチャレンジできる**定期的なマルシェの開催**をします。

個別事業2:
創業を通じて自身のキャリアを切り拓くための**勉強会を開催**します。

個別事業3:
創業を通じて自身のキャリアを切り拓くために大切になる、
同志・仲間作りのための**交流会を開催**します。

(3) 事業概要③ 目標と期待する効果

創業にチャレンジする人を増やしたい！

＜そのための数値目標＞

- ・本事業の**会員を3年間で会員50人**を目指し、その1割の**5人以上を創業に導く。**
- ・上記目標に向け、**1年目は会員30人、2年目は会員40人、3年目は会員50人**を目指す。



創業者の増加は**地域の活性化**につながります。

また、**区のイメージも、**

今まで以上に創業を支援しているという印象を与えることになるので、北区での創業を検討する人が増える効果も期待できます。

(3) 事業概要 チャレンジメンバーの募集

個別事業①～③の対象となる
いそどりチャレンジメンバー募集のための説明会を**11回開催**

<説明会開催実績>

4月12日(水)・・・13名、4月13日(木)・・・3名

5月10日(水)・・・5名、5月11日(木)・・・4名

6月7日(水)・・・2名、6月8日(木)・・・2名

9月14日(木)・・・2名

10月11日(水)・・・2名

12月14日(木)・・・1名

1月30日(火)・・・1名

2月8日(木)・・・2名

→**2月29日木時点で31人のチャレンジメンバーの参加**

(3)事業概要 個別事業1 活動報告

個別事業①創業支援マルシェの定期的な開催

年5回の実践の場を提供

- ・7月26日(水)いんどりマルシェ 出店者24名(うち会員7名)
- ・11月18日(土)いんどりチャレンジショップ 出店者14名
- ・12月21日(土)いんどりチャレンジショップ 出店者14名
- ・1月20日(土)いんどりチャレンジショップ 出店者13名
- ・2月28日(水)いんどりマルシェ 出店者22名(うち会員12名)

※開催場所:リノア北赤羽つながるば..、ビーンズ赤羽テラス





(3) 事業概要 個別事業2 活動報告

個別事業②創業支援マルシェ出店者の勉強会の開催

年4回の勉強会を開催

- ・7月5日(水) ブランディング
 - ・10月14日(土) ブランディング
 - ・2月4日(土) 事業計画
 - ・2月9日(水) ブランディング総まとめ
- ※北区産業振興課さんの情報提供あり



(3) 事業概要 個別事業2 活動報告

< 受講後アンケート紹介 >

融資を受ける予定はありませんが、「宣伝のツール」として事業計画書を作りたいです。事業計画書も融資も難しそう……というイメージがありましたが、先生のお話はとてもわかりやすく面白かったです！（事業計画勉強会）



自己開示や告知の出していく量が足りないと感じたので、アウトプットを習慣にしていきます。現在インスタフィード投稿、リットリンクで提供サービスのまとめ、インスタライブ、ストーリーズ、ラジオ、note執筆をやってきましたが、継続できていないものもあるのでスケジュールに落とし込んで発信していきます。（ブランディング勉強会）



(3)事業概要 個別事業3 活動報告

個別事業③交流会の開催

年7回の交流会を開催

4月28日(金) オンライン

5月24日(水) オンライン

6月30日(金) オンライン

8月26日(土) 対面

10月14日(土) 対面

2月28日(水) オンライン

2月29日(木) 対面

※チャレンジショップMTG・・・7回開催

チャレンジショップについてのチャレンジメンバー間での話し合いを7回設け、
交流が深まりチャレンジショップ成功につながった。

10月20日(月)・11月6日(月)・11月20日(月)・12月4日(月)・12月18日(月)・1月9日(火)・1月22日(月) すべてオンライン



(4) 役割分担・協働の効果

<区の役割>

・区内での公的広報

- 自治会掲示板への掲示(2000枚×1回)
- チラシの配架(700枚×3回)
- 北区ニュースの掲載(2回)
- 北区公式SNSなどでの情報発信2回

・効果的な施設・場所でのマルシェ開催の助言・調整

→事業の信頼性の高まりから、ビーンズ赤羽でのいんどりチャレンジショップ開催につながる

・創業希望者への支援や創業支援機関やプロジェクトとの連携

→勉強会での区のサービス紹介



<彩結びが果たす役割>

- ・マルシェ・勉強会・交流会の企画・運営・実行
- ・創業予備軍のネットワークづくり
- ・北区が実施している創業サポートの情報提供や連携

<協働の効果>

- ・広く区内に呼びかけることが可能となり、事業の周知につながった
- ・事業の信頼性が高まり、新しい商業施設での開催につながった
- ・区のサービスを直接創業予備軍に伝えることができ、創業予備軍の活動の後押しとなった

(5) 事業の決算額

総事業費	¥3,429,229
助成対象経費	¥2,902,807
対象外経費	¥526,422

＜対象経費内訳＞	
交通費	¥64,660
消耗品費	¥170,383
謝礼	¥83,508
印刷製本費	¥40,865
使用料・賃借料	¥4,400
人件費	¥1,432,000
委託料	¥1,102,453
通信運搬費	¥4,538
計	¥2,902,807

＜対象外経費＞	
飲食経費	¥23,122
対象外人件費	¥503,300
計	¥526,422

(6) 事業の成果や課題

【成果】

創業予備軍であるチャレンジメンバーを**31名**集めることができた。

チャレンジメンバー31人に対して、勉強・交流・実践の場を提供できた。

チャレンジメンバーとして継続的な活動をする中で、メンバー同士が交流を深め仲間になって安心感が増えた。

お互いの活動が刺激となり、開業届を出したり、出すことに前向きに検討するメンバーが出た。

本事業の最終目標である開業届を**5名出すことは初年度で目標達成**。いかに繋がりや仲間が後押しになるか改めて実感した。

(6) 事業の成果や課題

【課題】

チャレンジメンバーの熱量の差を埋められなかったこと。

開業届を出して終わりではなく、その後事業を継続するために収益化することが課題。

2024年度は、入会後の意識づけやコラボレーションを生み出す仕掛けなどを通して、意欲的に取り組むメンバーを増やしたい。それこそが各人の活動の幅を広げ、創業という選択に踏み出し後押しとなると考えている。

2. 銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり

提案団体 一般社団法人せんとくとまち

主管課 シティプロモーション推進担当課

(令和6年度現在：シティブランディング戦略課)

(1) 団体概要

一般社団法人「せんとくとまち」は、銭湯が持つ文化的価値に光をあてながら、銭湯とその周辺のまちの生活文化を育てている重要な建物や人、環境の潜在的価値を掘り出し、見える化することを活動の軸としています。それらを広く社会に発信することで、歴史の積層を踏まえた「銭湯があるまちなみ」の魅力の向上を図ることを目指します。また、銭湯が地域にもたらす価値を高め、銭湯とまちとの持続可能なあり方を提案しています。

(2) 事業目的

高齢者の増加、孤立問題は北区においても例外なく深刻化が見込まれています。また、過度な再開発による生活のスタイルの変化や家族構成の移り変わりにより、高齢者のみならず地域内の人々のつながりは年々希薄化しています。本事業では、「銭湯」その周辺のまちに向き合うことで、地域内の多世代間の関係性を育み、地域コミュニティの再生へとつなげることを目指しています。

北区は、かつての暮らしを物語る歴史的・文化的な資源が、今なお多く現存する希少なエリアです。中でも、銭湯は古くから地域に寄り添い、情報が日常的に集まる場所です。しかし、その価値が十分に認識されているとは言い難く、それらの可能性の発信共有が求められます。本事業では、銭湯利用者や地域に住まう多様な世代への聞き取りから、銭湯界隈の歴史や記憶を掘り起こし、地域の魅力として発信していきます。これらの活動を通じ、地域の高齢者の方々の居場所づくりに貢献すると共に、子育て世代や新規定住者といった「若い世代」にも、北区の魅力や価値に触れる機会を提供し、地域に対する愛着心の向上へとつなげることを目的とします。

(3) 事業概要

事業1 地域の記憶を語る場づくり、記憶集めトークイベント「わたしの銭湯とまち」の実施

令和5年度には、滝野川界隈を中心に7つの銭湯を取り上げ、各銭湯の脱衣所やロビー等を活用し記憶を語る場を設けました。滝野川界隈の昔の様子が映し出された古写真を持参いただいたり、かつての銭湯の様子や地域の賑わいについて、来場した方々から聞き取りを行ったりしながら、地域の記憶を記録していく活動を行いました。

事業2 地域の魅力を紐解く広報誌「せんとうとまち新聞」を制作・発行

地域の記憶を語る場づくりで語っていただいた記憶や地域のかつての様子、各種取材等を通して得られた情報をもとに、昔と今をつないで地域の魅力を紐解く広報誌を制作・発行いたしました。発行した新聞は、各銭湯や北区内の駅スタンド、図書館に設置し、多様な世代の地域住民の手元に届くようにしています。

事業3 地域の商店や見どころの魅力を発信するポストカード「〇〇湯とまち」を制作

各銭湯界隈のフィールドワークをもとに長く営まれている地域の商店や見どころを取材。それらの魅力を発信するポストカードシリーズを制作しました。各銭湯周辺につき3~4店舗程度のポストカードを発行。各銭湯や地域の商店等にポストカードを配布し、銭湯を訪れる地元住民らに地域の魅力を知っていただく手段としています。

事業4 本事業や各種地域の魅力をウェブやSNS等発信

上記、「せんとうとまち新聞」やポストカード「〇〇湯とまち」の情報をウェブ上で発信するとともに、本事業や各種地域の魅力について、SNS等にて積極的に発信し、北区の地域の魅力、北区にある銭湯の可能性を広報しています。

事業5 地域の記憶をまとめた展示企画

令和5年度は、北区の王子高架駅高架下カルチャーロード・ギャラリー及び滝野川稲荷湯隣の稲荷湯長屋にて展示イベントを実施。稲荷湯長屋では、堀団体や本事業に携わったメンバーらによるトークイベント等を行い、各銭湯でのイベントの様子や取材時に伺ったお話、それらを踏まえた滝野川界隈の銭湯や地域の魅力について語り合う機会としました。

(4) 役割分担

団 体：イベント企画・運営、広報

主管課：広報、イベントの同行および聞き取り協力

(5) 事業の決算額

区 分	項 目	金 額 (円)
収入	北区負担金	2,500,000
	団体負担金	56,514
	収入計	2,556,514
支出	消耗品	75,384
	謝礼	10,000
	交通費	67,951
	印刷製本費	414,444
	通信運搬費	54,348
	使用料賃借料	24,620
	人件費	846,000
	委託費	780,000
	備品費	283,767
	支出計	2,556,514

銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と 記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり 事業報告書

提案団体 一般社団法人せんとうとまち
主管課 シティプロモーション推進担当課

(1) 団体概要

一般社団法人「せんとうとまち」は、銭湯が持つ文化的価値に光をあてながら、銭湯とその周辺のまちの生活文化を育てている重要な建物や人、環境の潜在的価値を掘り出し、見える化することを活動の軸としています。それらを広く社会に発信することで、歴史の積層を踏まえた「銭湯があるまちなみ」の魅力の向上を図ることを目指します。また、銭湯が地域にもたらす価値を高め、銭湯とまちとの持続可能なあり方を提案しています。

(2) 事業目的

高齢者の増加、孤立問題は北区においても例外なく深刻化が見込まれています。また、過度な再開発による生活スタイルの変化や家族構成の移り変わりにより、高齢者のみならず地域内の人々のつながりは年々希薄化しています。本事業では、「銭湯」その周辺のまちに向き合うことで、地域内の多世代間の関係性を育み、地域コミュニティの再生へとつなげることを目指しています。

北区は、かつての暮らしを物語る歴史的・文化的な資源が、今なお多く現存する希少なエリアです。中でも、銭湯は古くから地域に寄り添い、情報が日常的に集まる場所です。しかし、その価値が十分に認識されているとは言い難く、それらの可能性の発信・共有が求められます。本事業では、銭湯利用者や地域に住まう多様な世代への聞き取りから、銭湯界隈の歴史や記憶を掘り起こし、地域の魅力として発信していきます。これらの活動を通じ、地域の高齢者の方々の居場所づくりに貢献すると共に、子育て世代や新規定住者といった「若い世代」にも、北区の魅力や価値に触れる機会を提供し、地域に対する愛着心の向上へとつなげることを目的とします。

(3) 事業概要

本事業では、主に以下の内容をもとに事業を行っています。

- ①地域の記憶を語る場づくり、記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」の実施

令和5年度には、滝野川界隈を中心に7つの銭湯を取り上げ、各銭湯の脱衣所やロビー等を活用し記憶を語る場を設けました。滝野川界隈の昔の様子が映し出された古写真を持参いただいたり、かつての銭湯の様子や地域の賑わいについて、来場した方々から聞き取りを行ったりしながら、地域の記憶を記録していく活動を行いました。

②地域の魅力を紐解く広報誌「せんとうとまち新聞」を制作・発行

地域の記憶を語る場づくりで語っていただいた記憶や地域のかつての様子、各種取材等を通して得られた情報をもとに、昔と今をつないで地域の魅力を紐解く広報誌を制作・発行いたしました。発行した新聞は、各銭湯や北区内の駅スタンド、図書館等に設置し、多様な世代の地域住民の手元に届くようにしています。

③地域の商店や見どころの魅力を発信するポストカード「〇〇湯とまち」を制作

各銭湯界隈のフィールドワークをもとに長く営まれている地域の商店や見どころを取材。それらの魅力を発信するポストカードシリーズを制作しました。各銭湯周辺につき3~4店舗程度のポストカードを発行。各銭湯や地域の商店等にポストカードを配布し、銭湯を訪れる地元住民らに地域の魅力を知っていただく手段としています。

④本事業や各種地域の魅力をウェブやSNS等発信

上記、「せんとうとまち新聞」やポストカード「〇〇湯とまち」の情報をウェブ上で発信するとともに、本事業や各種地域の魅力について、SNS等にて積極的に発信し、北区の地域の魅力、北区にある銭湯の可能性を広報しています。

⑤地域の記憶をまとめた展示企画「わたしのせんとうとまちー北区の記憶あつめー」展の開催年間を通して作成した「せんとうとまち新聞」やポストカード「〇〇湯とまち」の情報、紙面等に反映できなかった古写真など地域の記憶をまとめた展示を開催します。令和5年度は、北区の王子駅高架下カルチャーロード・ギャラリーおよび滝野川稲荷湯隣の稲荷湯長屋にて展示イベントを実施。稲荷湯長屋では、弊団体や本事業に携わったメンバーらによるトークイベント等を行い、各銭湯でのイベントの様子や取材時に伺ったお話、それらを踏まえた滝野川界隈の銭湯や地域の魅力について語り合う機会としました。

(4)役割分担

団体

- ・記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」制作、イベント時のファシリテーションや記録、地域リサーチ
- ・製作する広報誌「せんとうとまち新聞」およびポストカード「〇〇湯とまち」の編集、発行
- ・製作した広報誌「せんとうとまち新聞」やポストカード「〇〇湯とまち」の配布
- ・WEB発信
- ・「わたしのせんとうとまちー北区の記憶あつめー」展の制作、運営、イベント企画

主管課

- ・記憶を語る記憶集めトークイベント「わたしのせんとくとまち」の広報(チラシ、北区ホームページ、北区ニュース、広報番組等)
- ・記憶を語るイベント「わたしのせんとくとまち」の同行および聞き取り協力
- ・製作した広報誌「せんとくとまち新聞」等刊行物の配布
- ・「わたしのせんとくとまち—北区の記憶あつめ—」展の会場調整
- ・「わたしのせんとくとまち—北区の記憶あつめ—」展の広報等

(5)事業の実施内容(令和5年4月～令和6年3月)

①高齢者や地域住民を対象とした地域の歴史・文化を語り継ぐ場づくり トークイベント「わたしのせんとくとまち」実施

・実施概要

令和5年度は、滝野川界限にある以下の7つの銭湯を中心に、地域の記憶を語る記憶集めトークイベント「わたしのせんとくとまち」を実施しました。

各記憶集めトークイベントは「わたしのせんとくとまち—北区の記憶あつめ—」と題し、各銭湯のロビーや近隣の会議室などで開催。銭湯利用者や銭湯近隣住人を中心とした北区に住まう高齢者や若者等多様な世代を対象として、各銭湯との思い出や自身が住んでいる地域の過去の写真などを持ち寄りながら、地域に埋もれた歴史やかつてあったまちの風景、まち並みについて語り合う場としました。

滝野川稲荷湯、えびす湯、鶴の湯、大黒湯、松の湯、クアパレスゆうゆう、飛鳥山温泉

実施にあたり、各銭湯主や関係者らへの関係構築や丁寧な本事業の説明などを行い、事業の内容をご理解いただいた上で各銭湯主にも多忙な中ご協力いただきました。「わたしのせんとくとまち」実施前には、事前ヒアリングにて、各銭湯主へ銭湯の歴史や成り立ちなどについて話をうかがい、「わたしのせんとくとまち」本番に向けたスムーズな情報整理や準備も行いました。

・効果、反響等

各回の「わたしのせんとくとまち」では、銭湯に長年通われている常連さんや、地域に最近越してきた若い世代や親子連れ、銭湯に長年勤務していた三助さんなど、様々な世代や北区在住歴を持つ方々が集まりました。イベントでは、銭湯主の方よりかつての銭湯の様子などもお話いただき、地域のかつての賑わいの様子やかつてあった地域の商店の記憶、今も残る老舗商店の記憶や地域のお祭りの様子、日々の暮らしの様子など、様々な意見やお話をうかがえました。

開催回によっては多様な世代が集まりましたが、同じ地域に住まいながらも直接の接点やつながりがなかった人達であったため、本企画を通じて親睦を深める機会となり、地域の新たなコミュニティ醸成につながりました。

・告知方法、配布内容

各回実施にあたり、地域の記憶や歴史を語っていただく方を募集し、チラシの作成と配布による告知、各種SNS等による広報によって参加者を募りました。
また、店主らからの口コミなどを通して、銭湯の思い出を語っていただける方々にお越しいただきました。

<作成部数と配布先>

北区役所	100部
対象銭湯	110部
協力いただいた周辺店舗(3~4店舗程度)	70部
各関係者	30部

(1)滝野川稲荷湯(北区滝野川6丁目)

開催日時:5月25日(木)

開催場所:稲荷湯長屋

参加者:3名(常連さんやご近所に住まわれている方等)

先々代のご店主の声が街中に響く良い声で有名だったことや、その様子を町内会の宴会芸で真似する人までいたというエピソードが披露されました。また、稲荷湯の近所にあった小さな映画館について、持参していただいた写真等の資料を見ながら、かつての賑わいの様子などをうかがうことができました。近所で米屋を営まれ、今でも銭湯に通われているご主人は「かつては銭湯を中心に生活があり、人々がつながっていた」とかつてを振り返っていました。

(2)えびす湯(北区滝野川1丁目)

開催日時:7月21日(金)

開催場所:飛鳥山博物館 講堂

参加者:6名(常連さんやご近所に詳しい方等)

銭湯主からは銭湯の成り立ちについてお話いただきました。常連の方々からは、最近では銭湯常連の顔見知り数が少なくなり少し寂しくなった、という地域の高齢化や孤立の問題についての意見が交わされる一方、近年では若い人が銭湯に足を運ぶようになってこれまでとは違った賑わいを見せていることなど、銭湯に通う人達の様子の変遷について話が飛び交いました。

また、かつては氏子域が重なる場所に「競走横丁」と呼ばれる商店街があり、商店のお客さんや店主がそれぞれに競い合うほどに賑わいがあったといったお話など、昔の地域の様子も数多くうかがえました。



- * わたしのせんとうとまち えびす湯 チラ
- * わたしのせんとうとまち えびす湯 イベントの様子

(3)鶴の湯(北区滝野川1丁目)

開催日時:7月21日(金)

開催場所:鶴の湯さんの脱衣所

参加者:6名(常連さんやご近所に住まわれているご家族等)

第2回に開催したえびす湯さんのお話でも話に挙がった、地域に一軒しかない魚屋さんの店主が怖い店主として有名だった、という地域ならではの共通の話題が上がりました。また、かつての銭湯は多くの人で混雑しており、まず何よりも先に洗い場の場所取りをしてから服を脱いだといった、銭湯が賑わっていた頃のお話など、常連さんだからこそ知っている多くの地域の記憶が掘り起こされまし

た。また、昔は界隈の人達は皆顔見知りであったことなど、顔が見える関係ならではの地域コミュニティの様子についてもお話をうかがうことができました。



* わたしのせんとうとまち 鶴の湯 チラシの様子



* わたしのせんとうとまち 鶴の湯 イベントの様子

(4)大黒湯(北区上中里2丁目)

開催日時:9月22日(金)

開催場所:大黒湯

参加者:4名(常連さんや先代の銭湯主ご夫妻等)

銭湯を家業とするご一家がこの地に流れ着くまでの戦前戦後の激動の時代の苦労話をうかがいました。また、大黒湯の銭湯や地域が賑わっていたときは、銭湯の脱衣所に沢山あった子供用ベットが足りず、更衣用の籠が赤ちゃんベッドとなっていたお話や、子供の面倒を見る女中さんが10人もい

た話をうかがうことができました。また、昔はロビーでカラオケができたことや、東京のコミュニティ銭湯第一号として広い二階の広間にて卓球やダーツ、ボクシングの練習などが行われていた話が上がりました。ここで汗をかき、銭湯で流すという豊かな日常があったことを聞き取ることができました。



あなたの思い出を
聞かせてください

2023.9/22(金) 11:00~12:30

参加無料

大黒湯 VOL.10

わたしのせんとうとまち

大黒湯 東京都北区上中里2丁目31-12

昔の話を聞かせてくださる方 (先着10名程度)

申し込み先
ご参加希望の方は、できる限り事前にEメールでご連絡ください。
(お名前、ご住所を記入ください)
Mail: sento to machi@gmail.com 電話番号: 059-5373-2905

記者団のトークイベント
と区の情報あつめ

* わたしのせんとうとまち 大黒湯 チラシ



* わたしのせんとうとまち 大黒湯 イベントの様子

(5)松の湯(北区田端4丁目)

開催日時:9月22日(金)

開催場所:松の湯

参加者:4名(常連さんや銭湯主のご家族等)

銭湯に通う人達は顔見知りが多く、今でもたまに銭湯に行かない日があると「どうしたの?」と声をかけられるという話や、「銭湯で知り合いに会うのが楽しみ」というお話など、銭湯が日々の生活のなかでご近所同士の親睦や近況を語り合う場となっていたことがうかがえました。また、松の湯の目の前にある田端銀座商店街の思い出話として、今でも営業されている「おでん種屋さん」で、自身が子供の頃に袋入りのおでんを買って最後は串で袋に穴を開けてスープを飲んだというユニークなお話など、商店街や地域の様子の思い出話を数多く聞かせていただきました。当時のアルバムを持参される方もいらっしゃいました。



1日 時
2023.9/22(金) 15:00~17:00
1場 所
松の湯 東京都北区田端4丁目3-9
1対 象
昔の話を聞かせてくださる方(定員10名程度)
1想 い 合 せ 方
ご参加希望の方は、できる限り事前にEメールでご連絡ください。
(お名前・ご住所を記入ください)
Mail: senryo to machi@gmail.com 電話番号: 03-5373-2935

参加
無料
松の湯
VOL.5
わたしの
せんとうと
まち
記憶集めトークイベント
松の湯の記憶あつめ

*わたしのせんとうとまち 松の湯 チラシ



*わたしのせんとうとまち 松の湯 イベントの様子

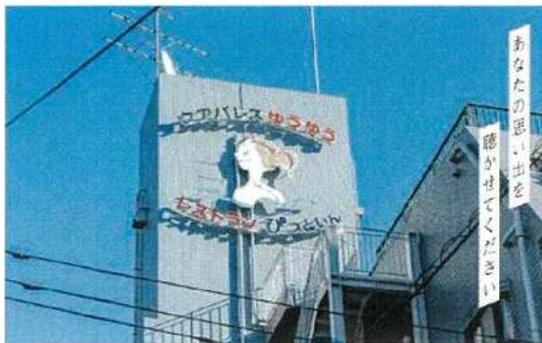
(6)クアパレスゆうゆう(北区滝野川7丁目)

開催日時:12月16日(土)

開催場所:クアパレスゆうゆう 休憩室

参加者:5名(常連さんや70年間三助さんとして勤めていた方等)

常連さんが、昔祖母と一緒に来て牛乳を飲んだといった思い出話や、顔馴染みの人が来ない日があると心配になるといった、銭湯コミュニティにおける地域のつながりの重要性を感じる話が交わされました。三助さんとして勤めていた方からは「昔は一日70人もの背中を流して、そのお金で毎日銭湯の常連さんの飲み屋さんで番頭さんとお酒を飲んでいた」といった、かつての銭湯の賑わいを感じさせる貴重なお話をうかがうことができました。



2023.12/16(土) 14:00~15:30
クアパレスゆうゆう 東京都北区滝野川1丁目11-8
昔の話を聞かせてくださる方(共有10名程度)
ご参加希望の方は、できる限り事前にEメールでご連絡ください。
お問い合わせ先: 常連さん(仮称)
Mail: yento.to.machi@gmail.com 電話番号: 030-5373-2905

*わたしのせんとうとまち クアパレスゆうゆう チラシ



*わたしのせんとうとまち クアパレスゆうゆう イベントの様子

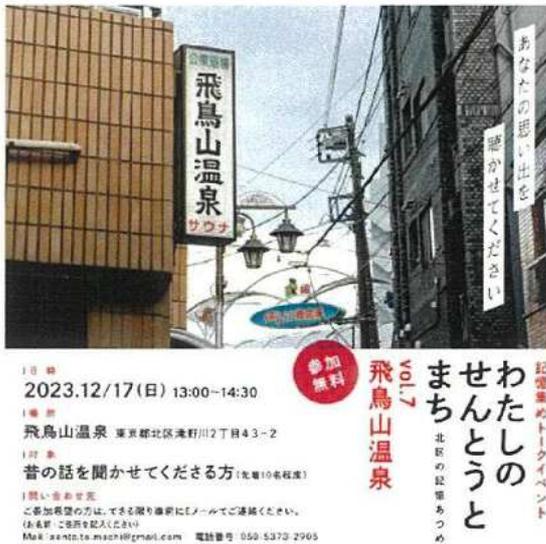
(7)飛鳥山温泉(北区滝野川2丁目)

開催日時:12月17日

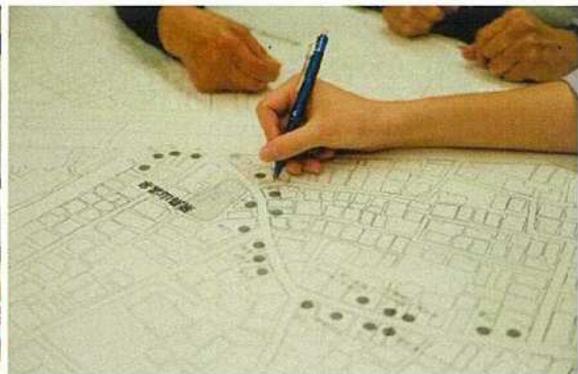
開催場所:飛鳥山温泉 ロビー

参加者:5名(常連さんや近年通うようになった方等)

お話の中で、昔ロビーがミニ飲み屋さん(カラオケ付き)だった頃に毎日歌いに来ていたお客さんがいたことや、祭りのカラオケ大会では一番前に座り銭湯の常連同士で茶化したり、花束をあげていたことなど銭湯とまちのユニークな話が交わされました。最近通うようになった常連さんからは「地下水をそのまま使うことで季節によって変わる水風呂の温度に魅了され、雑司ヶ谷からバイクで通っている」といったお話など、銭湯の魅力がきっかけで地域に足を運ぶようになった方など、様々な意見をうかがうことができました。



*わたしのせんとうとまち 飛鳥山温泉 チラシ



*わたしのせんとうとまち 飛鳥山温泉 イベントの様子

②地域の歴史・文化を発信する広報誌「せんとろとまち新聞」の作成および配布



*「せんとろとまち新聞」7種の様子



*「せんとうとまち新聞 ーvol.1滝野川稲荷湯」の表裏

・実施概要

「せんとうとまち新聞」を媒介に、世代間、地域住民同士の交流の促進を図ることを目的としています。

①やりサーチを通して聞き取った銭湯の歴史や地域の記憶、思い出、歴史や文化などの情報をもとに、地域の価値や魅力を深く理解するための広報誌「せんとうとまち新聞」を各銭湯毎に全7号作成しました。

第1号「滝野川稲荷湯」

第2号「えびす湯」

第3号「鶴の湯」

第4号「大黒湯」

第5号「松の湯」

第6号「クアパレスゆうゆう」

第7号「飛鳥山温泉」

裏面では、地域の「記憶地図」という地図を作成し、かつてあった地域の商店やそこであった出来事、今なお現役で営業している商店の様子や名所などを記載し、銭湯界隈の物語を可視化することで、地域の新たな魅力を知る内容になっています。

・配布内容

各新聞は、今回、聞き取りを行った各銭湯を中心に配布しているほか、北区浴場組合にも協力を頂き、北区内の全銭湯23軒でも配布しました。

また、配布に際して、主管課であるシティプロモーション推進担当課から、北区内の駅スタンドや図書館等の北区内の各施設でも配布いただき、多くの方々に届けることができました。

<作成部数と配布先>

①シティプロモーション推進担当課様に配布願分

・区内駅(25駅×20部)	500部	
・図書館(15館×15部)	225部	
・地域振興室(19館×5部)	95部	
・飛鳥山博物館		20部
・区役所	50部	

②せんとうとまち配布分

対象銭湯	500部
区内銭湯(16軒*10部)	220部
展示配布用・予備	885部

計

2500部 ※各銭湯毎

・効果、反響等

「せんとうとまち新聞」をご覧いただいた方々から、弊団体だけでなく各銭湯にも「新聞を読んだよ」「地域の面白さを改めて感じた」「新聞を見て来た」などの声が多く寄せられました。

③地域の見どころを紹介するポストカード「〇〇湯とまち」の作成および配布



* 作成したポストカード23種

・実施概要

銭湯のみならず、銭湯界隈のまちの活性化を目指し、地域の魅力を発信するポストカードを作成。まちの情報拠点ともいえる銭湯で配布し、住人にそれらの魅力を改めて共有すると共に、銭湯とそれらの関係性を編み直すことを目指しています。

各銭湯の界隈にて、①で聞き取った地域で長く営まれている商店や見どころなどの取材や撮影を行いました。表面に店舗や店主の人柄などが分かる写真、裏面に紹介テキストを入れ込んだポスターカードを作成。また、商店への取材内容は、広報誌「せんとうとまち新聞」の地域の「記憶地図」にて現在も営業している店舗情報として記載しています。

取材先としては、「鶴の湯」のサウナ室のメンテナンスも手がけているという「小川木材商店」や、「松の湯」での記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」の参加者から幼い頃の思い出として話題に上がっていたおでん種屋「佃忠 かまぼこ店」、「クアパレスゆうゆう」の近くで2023年にオープンしたばかりの古民家を改装した貸しスペース「滝野川フレイムス」等、今なお地域に活力を与え続ける店舗などをポストカードとして作成しました。

・配布内容

取材先の各銭湯のロビーや脱衣所に設置した他、取材先の商店にも配布し、まちのインフォメーションツールとして活用いただいています。

< 作成部数と配布先 >

23種(各銭湯周辺を3~4店舗程度を作成)

各対象銭湯 100部、
取材先店舗 10部
展示 90部、
予備 50部

発行数 各250部 ※各取材対象毎

・効果、反響等

ポストカード作成のために各店舗や商店へ取材や撮影を行った際には、記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」時には出てこなかった話が聞けるケースもありました。

例えば「飛鳥山温泉」のあるばんば商店街で約110年営業している畳店「八巻畳工業」では、ポストカードの取材の中で昭和30年代頃の商店街を歩く花嫁行列の古写真を提供いただき、その写真に写っていた花嫁が今もご近所に住まわれているということをご紹介いただきました。ご紹介いただいた先の個人宅で、さらに何枚もの昭和30年代のばんば商店街の様子がうかがえる古写真を提供いただき、ポストカードのみならず「せんとうとまち新聞」もより充実した内容にすることができました。こうした地域の方の記憶をもとにした丁寧な聞き取りによって、まちのかつての様子を今までとは違ったかたちで浮き彫りにすることができています。古写真などをきっかけに、かつてのまちの様子を知っている高齢者の方々との新たなつながりも生まれました。

また、「クアパレスゆうゆう」近くで障がいのある方たちが働き、自立して生活することを支援するために2011年にオープンした「スワンカフェ&ベーカリー 滝野川店」では、ビルのオーナーである伊藤様から「銭湯だけでなくその周辺の店もあわせて一緒に盛り上げていこう、魅力を発信していこうとしていただけるのは大変ありがたい」「久しく銭湯に行けていなかったが、利用者さんたちを連れて銭湯に入りに行こうと思う」という言葉をいただき、これまで近所でありながらつながりの薄かった人たちに、改めて銭湯の存在感を示す効果もあり、本事業による様々な活動が地域同士の連帯や地域経済を盛り上げるきっかけとなっています。

取材した店舗からも「良いポストカードなのでうちでも配りたい」という声も多数いただいています。店舗同士のつながりや、地域で活動する商店を知るきっかけとして、地域住民の方々らへの新たな地域の魅力発見の機会となりました。

④上記の発信と連動したWEBサイトの公開

・実施概要

本事業を紹介するページを、弊団体のホームページに特設し本事業で取材した写真等を紹介している他、弊団体のSNSにて、参加者の募集や活動の紹介を積極的に発信。本事業の取り組みの意義などを周知するとともに、北区にある銭湯やその界隈の魅力を広報しました。

▼北区政策提案協働事業に関連するウェブサイトはこちら

<https://sento-to-machi.org/kita-ku/>

・効果、反響等

SNSをみて、トークイベントに参加する方や、自宅にお持ちの古写真を寄贈するために弊社にご連絡をくださった方、稲荷湯長屋にご持参いただく方等がいらっしゃいました。

引き続き、集まった地域の歴史や記憶を収集するとともに、ウェブサイトにて各種情報を整理、アーカイブする活動を行います。

また、SNSでは、リアルタイムに参加者や取り組みに興味を持った方々の反応を集めることができました。事業に対する共感の声や、嬉しい感想を多くいただいています。



* SNSにてわたしのせんととまちの発信の様子(X、Facebook)





* 本事業WEBサイト

⑤地域の記憶アーカイブの展示企画「わたしのせんととまち 北区の記憶あつめ展 vol.1 滝野川界限」の実施

・実施概要

本事業で作成した広報誌「せんととまち新聞」やポストカードの写真、および広報誌に入れられなかった資料や古写真などをもとにしたパネルを作成し、「わたしのせんととまち 北区の記憶あつめ展 vol.1 滝野川界限」と題した展示を、北区の王子駅高架下カルチャーロード・ギャラリーおよび稲荷湯長屋にて開催しました。

わたしのせんとうとまち
—北区の記憶あつめ—展
vol.1 滝野川界限

全国的に銭湯が減少している中、北区では現在も23軒の豊富な銭湯が残ります。この数、そんな北区の銭湯のうち、滝野川界隈の7軒とその周辺の歴史や物語を取り「せんとうとまち新聞」を作成しました。より多くの方々にその魅力を共有するために新聞の特性に合わせて展示イベントを開催します。

展示会場①
王子カルチャーロード・ギャラリー 北區
〒165-0001 東京都北区王子1丁目10-18王子駅北口・王子地下ガード高架下階層
開催期間：3/13(水)～25(月)

展示会場②
稲荷湯長屋
〒112-0001 東京都北区滝野川4丁目27-17(滝野川稲荷湯コインランドリー後ろ)
開催期間：3/15(金)～31(日)

※展示料は無料です。但し、会場費がかかります。会場費は、展示期間中に会場を借りるための費用です。会場費は、展示期間中に会場を借りるための費用です。会場費は、展示期間中に会場を借りるための費用です。

展示場所① 王子カルチャーロード・ギャラリー 北區 3/13(水)-25(月)

時間：24時間(朝日のみ12:00～) 無料
住所：東京都北区王子1丁目10-18王子駅北口・王子地下ガード高架下階層
高層下の過道に沿って、「せんとうとまち新聞」を大規模で一挙公開。

展示場所② 稲荷湯長屋 3/15(金)-31(日)

時間：平日11:00-20:00 土日13:00-20:00 水・水休み 無料
住所：東京都北区滝野川4丁目27-17(滝野川稲荷湯コインランドリー後ろ)
滝野川界隈の銭湯に2012年にオープンした湯上り屋「稲荷湯長屋」にて、「せんとうとまち新聞」の配布や取材時の様子をご紹介。
会場では各種楽しいイベントも開催予定。詳しくは、一般社団法人せんとうとまちのWebサイトやSNSをご覧ください。

滝野川界隈の銭湯について語ろう!
「せんとうとまち新聞」を通して、滝野川界隈の銭湯の魅力を知ることができ、
「せんとうとまち新聞」を通して、滝野川界隈の銭湯の魅力を知ることができ、
「せんとうとまち新聞」を通して、滝野川界隈の銭湯の魅力を知ることができ、

●せんとうとまちDAY 3/23(土)14:00-15:30, 18:00-19:30
せんとうとまちメンバーが担当した滝野川界隈の銭湯とまちの魅力をご紹介。

●せんとうとまち 昼スナック 3/30(土)15:00-20:00
滝野川界隈の銭湯とまちスナックをつつまねに。

北区区民協働推進事業
「わたしのせんとうとまち」プロジェクトとは
「わたしのせんとうとまち」は、一般社団法人せんとうとまちの発案で、北区に在住する多くの
「わたしのせんとうとまち」を通して「せんとうとまち新聞」を発行しています。
2024年度は「せんとうとまち」を発行、参加者を募集します。詳しくは、一般社団法人せんとうとまちのWebサイトやSNSをご覧ください。

銭湯を起点にコミュニティのあり方を考える
一般社団法人せんとうとまち
銭湯の衰退期、更には270軒減った銭湯は現在50軒を数えています。一方で銭湯は、高齢者福祉や子育て支援、防災や地域医療、そして地域や、社会を担う場としての役割も果たし、世界的に注目される公共空間においても重要な役割を果たしています。また、地域に多く残る銭湯は、地域コミュニティの核となっており、その役割はますます重要になってきています。
一般社団法人せんとうとまちは、その役割の再考、銭湯とその周辺地域の活性化を図る、再考・連携していくことを目指しています。上記の取り組み、滝野川界隈とその他の関りがある事業者の連携、再生(稲荷湯長屋プロジェクト)に取組み始めたことを既に発表しました。これからは全関東で、銭湯の持つ文化財・社会的価値を、地域社会に還元するために取り組んでいきます。

Donation ご寄付のおねがい(¥500円～)
「一般社団法人せんとうとまち」は、銭湯の維持や活動で運営しています。銭湯とまちの文化を後世のために、お力添えをお願いいたします。

Information
一般社団法人せんとうとまちWebサイト
<https://bit.ly/sentotomachi>
お問い合わせ: sento.to.machi@gmail.com

* 展示「わたしのせんとうとまち—北区の記憶あつめ—展」チラシ表面と裏面

・告知方法、配布内容

広く展示に足を運んでいただくため、主管課であるシティプロモーション推進担当課にもご協力いただき、北区内の各施設へチラシの配布なども行っていただきました。また、北区内の各銭湯にもチラシを配布させていただき、展示のご案内を行いながら本事業の理解促進にも務めました。

< 作成部数と配布先 >

- ①シティプロモーション推進担当課様に配布願分
- 区内駅(25駅×30部) 750部
- 図書館(15館×30部) 450部
- 地域振興室(19館×10部) 190部
- 飛鳥山博物館 30部
- 区役所 100部

②せんとうとまち配布分

王子地区銭湯(7軒×200部)	1400部
区内銭湯(16軒×100部)	1600部
銭湯関係者や近隣への告知	350部
保管用	70部

計 5000部

①王子駅北口の高架下通路(カルチャー・ロード ギャラリー)

■開催期間:3月13日(水)~25日(木)

・実施概要

人通りの多い王子駅の高架下通路の片側11面の展示ケースにて、本事業の取り組みを紹介。主に、今年度取材した7軒の「せんとうとまち新聞」全てを大判にして表面裏面をご紹介するとともに、取材時の写真やイベントの様子、集まった地域の古写真など新聞に掲載しきれなかった写真をイメージとして展示しました。

・反響、効果等

設営準備中も、多くの地域の方々が興味をもって展示を見ていただきスタッフに声をかけていただきました。展示期間中は立ち止まってじっくりと「せんとうとまち新聞」を読む人の姿が多く見られました。



* 王子駅高架下通路カルチャー・ロードギャラリーでの展示の様子



* 王子駅高架下通路カルチャー・ロードギャラリーでの展示の様子



* 王子駅高架下通路カルチャー・ロードギャラリーでの展示設営中の様子

・効果、反響等

▼ 展示の反響の様子 (SNSより抜粋)

sokoseko @ssk99902

「わたしのせんとうち 北区の記憶集め」展。王子カルチャーロードギャラリーの方へ。
 「わたしのせんとうち新聞」や写真の、ミニ展示。
 この新聞は、銭湯の人へのインタビューも良いけど、「記憶地図」が素晴らしい。閉店/現役の区分がされ、開業年や営業時の様子もなるべく盛り込まれてるの



午後9:03 · 2024年3月24日 702 件の表示

1 3 12 2

Tada Yukio @IWTYMD · 3月18日

せんとうち新聞
 飛鳥山温泉編
 王子駅通路にある掲示板に掲載中
 読み応えあります👍



1 1 13 307

あゆこ @thankyoueveryon · 3月23日

「せんとうち新聞」滝野川界限vol.1~7 王子駅高架下通路に大判で掲示されていて面白かった。
 記憶地図ではコモディイダが飯田百貨店だった頃の写真とエピソードも。楯包に使われていた薬を使ってクアバレスゆうゆうの湯を沸かしていたんですって(驚) (~25日まで)
 #北区王子



せんとうち | Sento & Neighborhood @sentotomach · 3月22日

今年度、聞き取りや取材等をさせていただいた7つの滝野川界限の銭湯とその地域の記憶と歴史をまとめた7種類の「#せんとうち新聞」、発刊中です。
 紙面では、各銭湯にまつわる歴史やかつての賑わい、...

1 17 666

② 稲荷湯長屋

■開催期間:3月15日(金)~31日(日)
15:00-20:00 水木休み(土日のみ13:00-20:00)

■展示の来場者数 ○合計306人 (1日10名~50名)



* 稲荷湯長屋での展示の様子

・実施概要

今回の取材対象でもある滝野川稲荷湯の隣にある弊団体が手掛けた湯上りどころ「稲荷湯長屋」を会場として活用。

< 展示内容 >

- ・7軒分の「せんとうとまち新聞」の配布
- ・23種のポストカード「〇〇湯とまち」の配布
- ・取材やイベント時の写真展示
- ・まちの古写真展示
- ・イベント時の映像
- ・「あなたのせんとうとまち」書き込み地図

「あなたのせんとうとまち」書き込み地図として、大判の紙に来場者が誰でもコメントできるコーナーも用意。来場者の様々なコメントを閲覧しながら、地域の魅力について知る機会にもなりました。また、会期中には「せんとうとまち新聞」を囲み、滝野川界隈の魅力を語る催しなども開催。

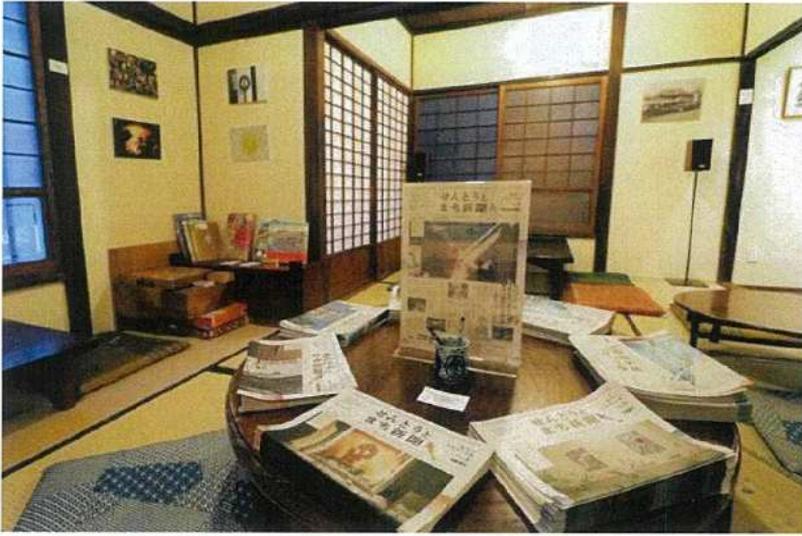
・効果、反響

稲荷湯長屋では簡単な飲み物や軽食が食べられるようになっており、湯上りにビールを飲みながら新聞を読んだり、散歩がてらにお茶をしながら写真を眺め談笑したりという光景も見られました。また、期間中は、「わたしのせんとうとまち」特別メニューとして、取材先の甘味や果物を仕入れて提供する企画も実施しました。2週間にわたる展示では、展示に合わせて入浴をする来場者も多く見られました。

会期中、展示の感想を集めるアンケートを実施し、63件を回収。その殆どが、本事業の取り組みに対する共感や、銭湯や自身の地域を見直すきっかけとなった等好意的な意見でした。



* 稲荷湯長屋での展示の様子



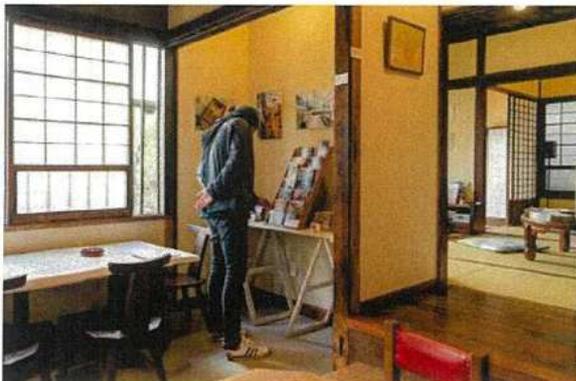
* 稲荷湯長屋での展示・「わたしのせんとまちな新聞」配布の様子



* 稲荷湯長屋での展示・ポストカード配布の様子



* 稲荷湯長屋での展示・「あなたのせんととまち」書き込み地図の様子





* 稲荷湯長屋での展示の様子

▼ SNSなどでの反響の様子(一部)



i) 3月23日(土)せんとうとまちDAY

- トークイベント14:00-15:30, 18:00-19:30
- 参加者数 各回10名~15名

・実施概要

せんとうとまちメンバーが取材した滝野川の銭湯とまちの魅力を紹介。
取材時のこぼれ話、広報誌に載せきれなかった各銭湯や界隈の様子について、メンバーらが報告しました。

銭湯のそれぞれの個性や特徴、取材先の銭湯全体を通して見えてきた戦前戦後の銭湯の隆盛やかつてのあたたかな地域の様子、人々の暮らしぶり、あたたかな関係性などを聞き取ったエピソードなどを踏まえて披露しました。

・効果、反響

地域の様々な歴史や物語を踏まえ、今後の地域のあり方を共に考える場となりました。また、多くの参加者が対象銭湯に行ったことがなく、足を運ぶきっかけを作れたと期待しています。

ii) 3月30日(土) せんとうとまち 昼スナック

■15:00-20:00

■参加者数 40~50名

・実施概要

滝野川の銭湯とまちのエピソードを来場者と語るイベント。老若男女が稲荷湯長屋に足を運んでくださり、広報誌「せんとうとまち新聞」やポストカードを片手に来場者同士で話が弾む様子も見られ、新たなつながりや地域のコミュニティが醸成される機会となりました。

展示には、たまたま通りかかったり、稲荷湯の番台で展示のことを知り、展示された内容を興味深く観覧するご近所に住まわれている子連れの家族や若いカップルがいました。

熱心に古写真を撮影したり、地図に集まった記憶の書き込みを読んだりするなど、地元の歴史を知るきっかけになるケースが多くみられました。過去の銭湯の多さに驚いたり、現役の銭湯の存在を初めて知った反応が印象的でした。

・効果、反響

ふらりと立ち寄った方々は、稲荷湯にいままで入ったことなく、今日初めて入浴する人など、本事業の活動や展示を機に銭湯そのものに興味を持ってくださった人もいらっしゃいました。稲荷湯長屋独自の取り組みとして、近所の和菓子屋や八百屋から展示期間に様々な「まちのおやつ」を仕入れたことが、ご近所に住まわれているご高齢の方々から人気でした。稲荷湯の常連客の方々が湯上がりに無料のお茶を飲みながらモナカやどら焼きを食べるために毎回お友達を連れて何度も展示や稲荷湯に足を運んでいただき、来ていただく度にご近所の話やかつてのお話で花を咲かせていました。

展示期間中に様々なイベントやコンテンツを企画することで、幅広い層が展示に足を運ぶきっかけとなり、来場者同士で北区内の名所や美味しいお店情報の意見交換など、地域に根差した場所ならではの会話が交わされました。

(6)事業にともなう広報活動および成果

1)北区ニュース(令和6年2月20日)の掲載



*「北区ニュース」の紙面



*「北区ニュース」配布の様子

・実施概要

主管課であるシティプロモーション推進担当課のご協力で、令和6年度2月20日号の北区の区報「北区ニュース」にて、「わたしのせんとうとまち」特集を組んでいただきました。

本事業の主旨や事業の成果である滝野川界限にある8つの銭湯の紹介、2024年3月内に実施する展示である「わたしのせんとうとまち 北区の記憶あつめ展 vol.1 滝野川界限」の告知広報を行いました。紙面構成や内容に関しては、弊団体に制作させていただきました。

・配布内容

「北区ニュース」は区報として約20万部発行され、北区在住の多くの方々に北区の銭湯や私たちの活動を知っていただく機会となりました。

発行した北区ニュースは、北区のウェブサイトにてアーカイブとして閲覧可能

■北区ニュース(令和6年2月20日号)

<https://www.city.kita.tokyo.jp/koho/kuse/koho/news/documents/060220.pdf>

<作成部数と配布先>

約20万部

区内の駅広報スタンド、区民事務所、地域振興室、図書館、男女共同参画センター、北区保健所、老人いこいの家、その他区施設、赤羽郵便局、王子郵便局、ファミリーマートの区内各店舗、マルエツ田端店、マルエツプチ上中里店等。

・効果、反響等

北区ニュースを読んだ方からの感想や声を各銭湯からも大変多くいただいた他、本事業に協力したい区民などから問い合わせもありなど、地域の方々が銭湯に足を運びきっかけや、若い世代の人達にとっては地域の魅力を知るきっかけとなるツールとなりました。

2) JCOMテレビにて「わたしのせんとうとまち」について放送

・実施概要

主管課であるシティプロモーション推進担当課にご協力で、北区の広報番組「住めば、北区東京。」にてせんとうとまちの活動を放送いただきました。

「わたしのせんとうとまち」の活動を中心に、弊団体の活動理念や活動の様子を丁寧に取材いただき、J:COMチャンネルの北区広報番組「住めば、北区東京。」にて、3月中は毎日3回放送をしていただきました。

・放映内容

■放送日時

公開日時:3/1(金)～3/31(日)(12時、20時、22時から各々15分間)

■北区 広報番組「住めば、北区東京。」

<https://city.kita.tokyo.jp/citypr/kuse/koho/bangumi.html>

放送された内容は北区の公式Youtubeでもアップロードいただきました。

▼北区公式Youtube「せんとうとまち・ひととひと」

<https://www.youtube.com/watch?v=svBFgcuKZMQ>



* J:COM Youtube番組のキャプチャ

3) せんとうとまちのニュースレターにて本事業の活動を配信



* ニュースレターの配信の様子

弊団体が毎月発行している「せんとうちニュースレター」にて、本事業採択後から、本事業の取り組みについて、毎月、ニュースレターを購読いただいている方々に活動報告や進捗をお知らせしました。

「わたしのせんとうち」についてのお知らせや実施後の内容の報告、北区ニュースの掲載、せんとうち新聞の配布、カルチャー・ロード ギャラリーや稲荷湯長屋での展示「わたしのせんとうち 北区の記憶あつめ展 vol.1 滝野川界限」のご案内などを約1000名の方々にご案内しました。配信した内容はウェブでも公開・閲覧できる仕様になっています。

ニュースレターの開封率も高く、稲荷湯長屋での展示では「ニュースレターを読んで見に来ました」という方も多くいらっしゃいました。ニュースレターを通じて、北区の銭湯や滝野川界限の地域の魅力が伝わる機会になっています。

▼ せんとうちニュースレター

<https://sentotomachi.substack.com/>

4) 赤羽経済新聞にて本事業の取り組みを記事にて紹介

赤羽を中心とした北区内のローカルニュース等を扱うインターネットサイト「赤羽経済新聞」にて、地域の記憶を語る記憶集めトークイベント「わたしのせんとうち」の実施や、「わたしのせんとうち 北区の記憶あつめ展 vol.1 滝野川界限」展のご案内を記事にさせていただきました。弊団体や事業に関わるメンバーらにも丁寧に取材いただき、本事業の目的などについても触れていただきました。



▼2023.06.02 滝野川の稲荷湯で「わたしのせんとうとまち」 街の歴史を語り合う
 - 赤羽経済新聞 <https://akabane.keizai.biz/headline/538/>



▼2024.03.08 北区内の銭湯の記憶を集めた「せんとうとまち新聞」 滝野川で関連展示 - 赤羽経済新聞 <https://akabane.keizai.biz/headline/607/>

(7) 事業の決算額

別紙「事業収支決算書」参照

(8) 事業の成果や課題

① 個別事業の取り組みの成果及び課題について

○ 成果

本事業は、北区内の銭湯を軸に、地域コミュニティの再生や多様な世代の交流の機会を創出することにより、高齢者も巻きこんだ地域コミュニティによるあらたなつながりを生み出すことを目的と設定しました。また、地域の歴史や記憶をもとに地域の新たな魅力発信や住人の地域に対する愛着心を向上させることも目的としています。そうした目的に対して、本事業では一定の成果を生んだと考えています。

・地域の記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」の各回では、銭湯に長年通われている常連さんや地域に最近引っ越してきた若者や親子連れなど多様な世代や北区に住んでいたことのある方々が集まり、多世代にわたる地域コミュニティの醸成を図ることができました。集まった方々からの銭湯にまつわる様々な思い出や地域のかつての様子など、普段では知ることの難しい界隈の魅力を知る機会となり、若い世代にとっては豊かな地域の姿を提示する機会となりました。

・地域の記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」及び事前の銭湯主へのヒアリングは、どれも新たな発見や地域の魅力に気づかされる時間となりました。各イベントに集まった方々も、地域に住まいながらも直接の接点やつながりがなかった人達も多く、本企画を通じてご近所同士での親睦を深める機会となり、地域の新たなコミュニティ醸成につながりました。

・「せんとうとまち新聞」やポストカード作成による追加取材などを通して、地域の方の記憶をもとにした丁寧な聞き取りを行うことで、まちのかつての様子を今までとは違ったかたちで浮き彫りにすることができています。古写真などをきっかけに、かつてのまちの様子を知っている高齢者の方々と新たなつながりも生まれました。

・「せんとうとまち新聞」をご覧いただいた方々から、弊社だけでなく各銭湯にも「新聞を読んだよ」「地域の面白さを改めて感じた」などの声が多く寄せられました。新聞をきっかけに、徐々に銭湯へ足を運んだ方や、初めて行ってみたという方も多く、銭湯主の皆さまからは感謝の声が多数届きました。住人の銭湯や地域への興味・関心を促すことができたとと言えます。

・制作したポストカードは、店舗同士のつながりや、地域で活動する商店を知るきっかけとして、地域住民の方々の新たな地域の魅力発見の機会となり、店舗紹介のツールとして、取材した店舗からも「良いポストカードなのでうちでも配りたい」という声も多数いただくなど、制作物をきっかけに地域活性の一助にもつながっています。

・本事業に携わるメンバーがポストカードの取材にて銭湯の周辺店舗等とつながることで、改めて途切れつつあった銭湯と周辺のまちの関係性を編み直し、再生していく兆しをつくれています。かつてのように銭湯とまちが互いに助け合い支え合うきっかけをつくれたと感じます。

・3月中旬から月末で開催した「わたしのせんとうとまち 北区の記憶あつめ展 vol.1 滝野川界限」展では、王子駅の高架下通路カルチャー・ロード ギャラリーを活用したことで、王子駅を行き交う多様な人達に、銭湯の魅力や面白さを広く知っていただく機会となりました。多くの方が立ち止まり、新聞に目を通す様子が見られました。

・稲荷湯長屋で実施した展示期間中、会場では7軒分の「せんとうとまち新聞」やポストカード23種を配布、取材やイベント時の写真展示、イベント時の映像を展示した他、「あなたのせんとうとまち」の記憶について、大判の紙に来場者が誰でもコメントできるコーナーも用意。来場者の様々なコメントを閲覧しながら、地域の魅力について知る機会にもなりました。

・展示では「せんとうとまち新聞」を囲み、滝野川界限の魅力を語る催しなども開催したことで、湯上りにビールを飲みながら新聞を読んだり、散歩がてらにお茶をしながら写真を眺め談笑したりという光景も見られ、地域に住まう高齢者同士のみならず来場者同士の新たなつながりも育まれました。また、これまで銭湯に足をあまり運んだことがない人も興味を持ってご来場いただくなど、地域における銭湯の存在感を強く示す機会にもつながりました。

・展示にて、新聞に掲載しきれなかった写真や地域の方々からお借りしたかつてのまちの風景の古写真を展示しました。展示に来場された方々の中には、それらに熱心に見入って居合わせた方と思い出話をされる様子も見られ、交流が生まれていました。

・こうした北区の地域情報や地域の魅力を積極的にウェブ上でも発信する基盤も整えたことから、日常的にデジタルに触れる若い世代に対しても、北区の新たな魅力を感じ取れるコンテンツを発信する機会となりました。

○課題

課題として、全体的なスケジュールの見通しの大幅な遅れによって、事業推進に様々な影響を及ぼしたことは大きな反省と捉えています。

・地域の記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」においても、銭湯主への早めの協力依頼などによって、常連や地域に住まう方々にもより多く参加いただける機会がしっかりとつくり切れなかったと感じています。地域の高齢者の方々への積極的なアウトリーチによって、これまで地域コミュニティとつながりきれなかった人との新たなつながりをつくれるような場ができるよう早めの準備や告知等声かけを行いたいと考えています。

・「せんとうとまち新聞」の発行数を当初の計画よりも増やしたことから、制作物の多さ、地域の方々への丁寧な取材の裏取りや内容確認に想定以上に時間を要したことから、事業計画よりも大幅なスケジュールの後ろ倒しとなってしまいました。本来であれば、滝野川界限の各銭湯を軸とした全7種類のせんとうとまち新聞を一定期間をあけて発行する予定が、ある程度同時にまとめて発行してし

まったことで、ひとつ一つの新聞の効果的な配布ができていないと感じています。また、全体的なスケジュールが後ろ倒しとなったことから、展示の告知広報もぎりぎりとなり、余裕を持った広報ができきれいいなかったことが挙げられます。

・滝野川界隈は弊団体が以前より関わっていた地域のため、事前の情報や関係性もあり、比較的スムーズに実施ができたとも言えます。年度末の展示会場も弊団体が管理している会場であったため柔軟に開催をすることができました。次年度以降は赤羽界隈ということで、イベント時の集客や会場探しが課題となりそうです。地元で活動する団体と関係性をつくりながら、北区のネットワークを活用して、住人の方々を巻き込んだ地域に根付いた内容となるよう心がけたいと考えます。

・事前の準備や関係者への周知及び協力依頼等の徹底とそれらを踏まえたスケジュール進行を見据え、次年度以降の事業計画の見直しや策定、および本事業の目的である高齢者らのつながりも含めた地域コミュニティの再生に寄与するための施策を実施したいと考えています。

②政策提案協働事業全体の成果及び課題について

本事業を通じ、改めて銭湯主や常連さん、地域にお住まいの方々、各商店の方々と密なコミュニケーションを行ったことで、普段では知ることのないかつての地域の歴史を浮き彫りにすることができました。地域の記憶を語る記憶集めトークイベント「わたしのせんとくとまち」に参加された方々のほとんどが、かつての地域の様子を嬉々として語られ、トークイベント終了後も自宅から探してこられた古写真など記録写真を発掘していただき、一過性で終わることのない取り組みとして、引き続きやりとりをさせてもらっています。地域の歴史や物語を、住人から聞き取るというこれまでとは違ったかたちで発掘するとともに、地域に住まう多様な世代の交流の機会が生まれ、地域コミュニティが醸成されたことは大きな成果です。

○成果

・本事業は、各銭湯の銭湯主へのご理解とご協力がなければ達成できない事業でした。そのため、北区との協働事業として実施することにより、銭湯主らへの事業の理解やご協力をスムーズに得られたことは、弊団体だけではできなかった大きな効果です。また、北区全域の銭湯とのコミュニケーションや理解浸透にあたっては、北区浴場組合のご協力もたまわりました。こうした取り組みも、北区との協働事業だからこそその大きな効果であり、協働事業ならではの規模感と信頼感を持って実施できたものと考えています。

・主管課であるシティプロモーション推進担当課においては、同課ならではのネットワークをもとに、弊団体は本事業の取り組みについてJ:COMの番組として丁寧取材・放送いただき、弊団体の認知拡大や本事業の北区在住の方々への認知を獲得できたと考えています。

・北区の区報「北区ニュース」の掲載は大変大きな効果であり、区内への広報や周知徹底にあたって、協働事業だからこそ実施できた結果だと考えています。「北区ニュース」を読んだことをきっかけに銭湯に足を運ぶ人や、北区ニュースを読んだ方から、地域の古写真のご提供があったりと、地域の歴史や記憶を集める活動の周知や理解がとても進みました。集まった様々な情報や資料が、引き続き地域の記憶を収集する大きな糧となると考えています。

○課題

・全体の反省としまして、記憶集めトークイベントや地域で営まれている商店への取材やポストカード制作などを通じ、当初の想定以上に膨大な地域の様々な歴史や記憶が集まりました。そのため、当初は広報誌は2回程度の発行を予定していたものを、各銭湯を核に界限の様子を丁寧に情報発信することが、地域の新たな魅力発信や、地域に住まう高齢者の方々とつながりを掘り起こすきっかけになると考え、事業の途中から全銭湯を軸とした新聞製作を行うことに切り替え、負担が増えることになりました。

・事業の推進にあたり、各銭湯の銭湯主への事前の本事業への協力の依頼などに時間を要したことから、実施のための下準備のスケジュールをもう少し余裕を持って確保すべきでした。事前の事業計画における見積りの甘さが、全体的なスケジュールの大幅な遅れを生じさせ、事業推進に影響を及ぼしたことは大きな反省と捉えています。

・次年度以降の事業実施にあたっては、本年度の反省点を活かし、事前に必要な準備とそれに伴う時間の確保、事前の綿密な事業計画に伴う着実な制作進行を心がけ、余裕を持った事業進行にあたります。

(9) 令和6年度の取り組み

令和6年度は、赤羽周辺の銭湯を軸に地域の歴史・文化を語り継ぐ場づくりを展開します。また、令和5年度で作成した滝野川界限の広報誌や聞き語りして集めた地域の歴史・文化をまとめながら、高齢者を含めた多世代交流のための企画なども実施します。年度末を予定している展示企画においては、令和5年度に集めた滝野川界限の情報とあわせて、赤羽界限および北区の歴史・文化の発信や交流の機会としたいと考えています。これらの施策を通じ、多様な世代が北区のことを深く知り地域に対する愛着心を向上させるとともに、様々な場作りやイベント企画などを通して、地域コミュニティを深める施策といたします。

添付資料

- ①記憶集めトークイベント「わたしのせんとうとまち」の全7回分のチラシ
- ②広報誌「せんとうとまち新聞」7号分
- ③ポストカード「〇〇湯とまち」23種
- ④展示企画「わたしのせんとうとまち 北区の記憶あつめ展 vol.1 滝野川界限」のチラシ

⑤北区ニュース 2/20号 「わたしのせんとうとまち」特集

⑥活動に対する感想や意見が書かれたSNSやアンケートの一部抜粋

第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組み、今後の協働事業に役立てるために行います。

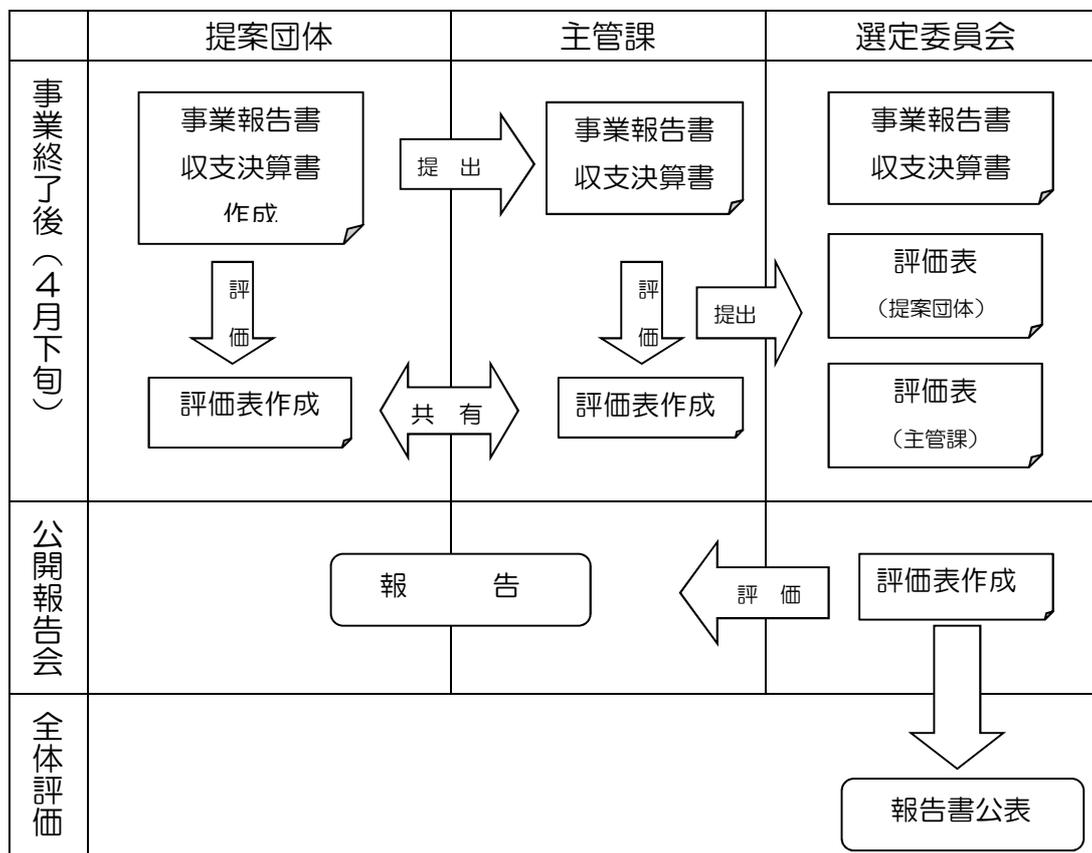
2. 事業の評価方法

協働事業の事業実施主体である団体と主管課がそれぞれ自己評価を行い、その内容を選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員会が評価し、その内容を公表します。

3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組み
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

4. 評価の流れ



5. 事業の実施主体による自己評価

(1) 起業するなら北区！起業・副業はじめの一步サポート事業

【団体による自己評価】（特定非営利活動法人彩結び）

① 計画段階での取組みについて

計画段階で、目標・目的と対象者をしっかりと協議し、共通認識をもって事業をスタートできたことがよかったです。

② 事業の進め方について

最大限効果を出すべく、区役所としてできる広報活動を当担当課様からご提案くださり、一団体ではできないような大規模な広報ができとても助かりました。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

・広く区内に呼びかけることが可能となり、事業の周知につながりました。（実際に、北区ニュースを見てご来場したりお問合せをくださったケースがありました。）

・事業の信頼性が高まり、新しい商業施設（ビーンズ赤羽テラス様）での開催につながりました。

・区担当課様に、勉強会にご参加いただき、区のサービスを直接創業予備軍に伝えることができました。一区民としては、区役所に問い合わせしにくいと思いますので、このような機会を設け、区役所の情報を発信できたことは有意義でした。

④ 協働事業の成果について

・創業予備軍であるチャレンジメンバーを31名集めることができ、勉強・交流・実践の場を提供できました。

チャレンジメンバーとして継続的な活動をする中で、メンバー同士が交流を深め仲間になって安心感が増えました。

また、お互いの活動が刺激となり、開業届を出したり、出すことに前向きに検討するメンバーが増え、本事業の最終目標である開業届を5名出すことは初年度で目標達成しました。

⑤ 全体を通して

・開業届を出して終わりではなく、その後事業を継続するために収益化することが課題であるため、2024年度は一層区の創業支援の活動と連携していくことや視察などを行っていきたいです。

【主管課による自己評価】（産業振興課）

① 計画段階での取組

・協働相手とは、「北区コミュニティビジネス創業支援ネットワーク」のアドバイザーやシンポジウム、交流会での登壇者など、産業振興課が実施している事業でかかわりがあったため、関係性がない状態からスタートするよりも初年度としては、対等な立場で意見交換、計画作成ができたを感じている。対象者の意見や要望、需要などについては、これまで以上に聴取等していきたい。

② 事業の進め方

・地域振興課が調整して実施していた定例会が機能していたため、意見交換に大きな課題は感じなかった。
・定例会とメールによるコミュニケーションが中心だったが、ちょっとした打合せをオンラインでやればより双方の負担なくできた場面もあったので、活用していきたい。
協働で取り組んだことによる効果について

③ 協働事業の成果

・計画段階での区の役割はマルシェ等の周知であったが、勉強会で区の事業を紹介する場面を設定していただくなどできたことは成果だった。
・現時点では区HPへ本事業を掲載しているが、区の創業支援事業においても本事業を周知するなど、協働の成果をさらに模索していきたい。
・JR東日本都市開発との連携によるビーンズ赤羽でのマルシェ開催やSNSを上手に活用した周知活動など、団体が持つノウハウを効果的に活用できた。

④ 協働事業の成果

・マルシェの5回開催、勉強会、交流会の5回ずつ実施するという計画を、計画通り実施できたこと、1年目の目標である会員数30名、本事業3年目終了時の目標である5名以上の創業を達成できたことは、団体による事業運営による点が大いと感じる。
・今後は、2年目3年目に向けて、会員を増やしていくという目標達成に向けて区が協力できる点を団体の意見も踏まえながら検討していきたい。

⑤ 全体を通して

・各種事業がコロナ前のように実施できる状況に戻った中で、区が持たない関係性やノウハウを持つ団体と協働することのメリットは非常に大いと感じた1年間だった。引き続き団体と連携しながら本事業を推進していきたい

(2) 銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり

【団体による自己評価】（一般社団法人せんとうとまち）

① 計画段階での取組みについて

計画段階において、北区と本事業の狙いや事業の目的を協議したところ、北区全域の銭湯への聞き取りや地域の記憶を語る記憶集めトークイベントを開催するとして、本年度は滝野川界隈の銭湯を中心に行うことになりました。トークイベントは7、8回程度開催する方針でいましたが、広報誌「せんとうとまち新聞」の作成は、当初2つほどの制作を想定したままでした。しかし、記憶集めトークイベントや地域で営まれている商店への取材やポストカード政策などを通じ、膨大な地域の様々な歴史や記憶が集まってきたことから、各銭湯を核に、界隈の様子を丁寧に情報発信することが、地域の新たな魅力発信や、地域に住む高齢者の方々とのつながりを掘り起こすきっかけになると考え、事業の途中から全銭湯を軸とした「せんとうとまち新聞」の制作を行うことに切り替えました。それにより、広報誌の制作が当初予定より増えたこと地域の高齢者や住民ら、地域の商店らへの丁寧な聞き取りや制作準備に追われ全体的なスケジュールが大幅にずれ込むなど、事前の計画段階と実際の事業実施におけるスケジュール進行に大きなズレが生じることとなりました。トークイベントを各銭湯で実施することを踏まえた余裕のあるスケジュール進行ができなかったのは、計画段階での反省と考えています。

②事業の進め方について

本事業の推進にあたり、各銭湯の銭湯主に対して事前の本事業への協力依頼や確認に時間を要したことから、実施の為の下準備のスケジュールをもう少し余裕を持って確保すべきでした。また、事業を推進していくなかで、「銭湯外町新聞」の制作を全銭湯分に切り替えたことにより、地域の記憶を語る記憶集めトークイベントの実施のみならず、地域の方々からお預かりした古写真のスキャン作業や写真の内容確認など、銭湯主や聞き取りを行った地域の方々への裏取りや確認作業が膨大となりました。あわせて、北区ニュースでの掲載など「せんとうとまち新聞」以外の情報媒体の掲載や発信にともなう掲載許可や内容確認なども重なり、事業計画から大幅に進行スケジュールが遅れることになりました。これにより、地域の記憶を語る記憶集め地トークイベント「わたしのせんとうとまち」の丁寧な集客や関係者への告知が十分にできなかったこと、「せんとうとまち新聞」の発行スケジュール等が大幅に遅れたことなどは反省点としてあげられます。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

本事業は、各銭湯の銭湯主へのご理解とご協力がなければ達成できない事業です。そのため、北区との協働事業として実施することによって、銭湯主らへの事業の理解がスムーズに進んだことは、弊団体だけではできなかった大きな効果です。また、北区全域の銭湯とのコミュニケーションや理解浸透にあたっては、北区浴場組合のご協力もたまわりました。こうした取り組みも北区との協働事業だからこそその大きい効果であり、協働事業ならではの規模感と信頼感を持って実施できたものと考えています。主管課であるシティプロモーション推進担当課においては、同課ならではのネットワークをもとに、弊団体は本事業の取り組みについてJ:COMの番組として丁寧に取材・放送いただき、弊団体の認知拡大や本事業の北区在住の方々への認知を獲得できたと考えています。また、北区の区報「北区ニュース」の掲載はとても大きな効果であり、区内への広報や周知徹底は、協働事業だからこそ実施できた結果だと考えています。地域の記憶を語る記憶集めトークイベント「わたしのせんとうちまち」や発行した「せんとうちまち新聞」、展示イベントの告知において、区内の駅スタンドや各施設への配布など、地域じゅうにらと多様な接点ができる場所に配布・設置いただけたことで、地域に住まう多様な世代への情報発信やイベント告知が行えたことはとても大きいです。特に展示イベントでは、これまで銭湯に足を運んだことがなかった人が展示に関心を持ってご来場くださり、それがきっかけに銭湯に入浴するようになったという成果もあります。協働によって多様な成果や効果が生まれたと大変実感しています。J:COMの番組取材や北区ニュース、各種チラシの配布やイベント告知のご協力は大変助かりました。次年度以降、赤羽エリア、王子エリアを中心とした銭湯の実施にあたっては、本年度と同様の取り組み(特に北区ニュースへの掲載)を期待しております。

④ 協働事業の成果について

本事業を通じ、改めて銭湯主や常連さん、地域にお住まいの方々、各商店の方々と密なコミュニケーションを行ったことで、普段は知ることのないかつての地域の歴史を浮き彫りにすることができました。地域の記憶を語る記憶集めトークイベント「わたしのせんとうちまち」に参加された方々のほとんどが、かつての地域の様子を嬉々として語られ、トークイベント終了後も自宅から探してこられた古写真など記録写真を発掘して下さり、一過性で終わることのない取り組みとして、引き続きやり取りをさせてもらっています。地域の歴史や物語を、住人に聞き取るというこれまでとは違ったかたちで発掘するとともに、地域に住まう多様な世代の交流の機会が生まれ、地域コミュニティが情勢されたことは大きな成果です。対象者の感想や意見は、SNS等で確認すると共に、実際に銭湯や店舗に足を運びお話や反響を聞く機会を多く設けました。様々な成果物が出揃い、お披露目を行った年度末には、この事業を通じて「多くの方々

が銭湯やその界隈のまちに興味を持った」という嬉しい声を銭湯主に伺ったり、「今度みなで銭湯に行こうと思う」というありがたい感想をいただいたりしました。年度末の「わたしのせんとうとまち北区の記憶あつめ」展においては、来場者にアンケートをお願いしたところ63件を回収。SNSやダイレクトメールでも取り組みに対して区内外から多くの反響をいただきました。活動に対して対しての感謝や次年度への期待のほか、銭湯や地域の持つ可能性に共感する声も多くありました。また、当事業へ関心を持ち、協力したいという連絡を専門性の高い社会人の方から学生の方まで幅広く頂いています。銭湯主の皆様が大変喜んでくださったことが何よりの励みでした。

⑤ 全体を通して

今回、北区との政策提案協働事業を通じ、北区全域の銭湯とのコミュニケーションを円滑にお行なうことができ、本年度では滝野川界隈の銭湯さんへの取材や銭湯とまち新聞掲載などによって大きな手応えを感じることができました。同時に、地域住民の方々を持つ様々な歴史や記憶を聞き取ることで、地域のこれまでとは違った魅力を発掘することができました。私たち「せんとうとまち」は、まさに、銭湯を軸とした地域との関係性を編み直し、銭湯を中心とした、地域の生態系をより良いものとするための活動を行っています。私たち「せんとうとまち」は、まさに銭湯を軸とした地域との関係性を編み直し、銭湯を中心とした地域の生態系をより良いものとするための活動を行っています。本事業を通じて、地域の中における銭湯の存在感を取り戻し、銭湯の持つ文化的・社会的な価値観をこれからの地域社会に活かす取り組みができたと実感しています。

【主管課による自己評価】（シティプロモーション推進担当課）

① 計画段階での取組

- ・区と団体のお互いの強みをしっかり理解し、適切な役割分担をすることができた。
- ・結果として計画通りに事業が進まない部分もあったが、2年目以降は活動の全体像が見えているので、計画段階で適切なスケジュールを組むことができるよう協議していきたい。

② 事業の進め方

- ・政策提案協働事業の1か年目で不慣れな点も多く、団体の構成メンバーが各々多忙ということもあり、事業がスケジュール通りに進まない部分があった。
- ・地域振興係が主催する定例会や、団体のイベントで顔を合わせる機会が多かったので、定期的に情報共有、意見交換をしながら事業を進めることができた。

③ 協働で取り組んだことによる効果

- 団体が持っているコネクションや活動の柔軟性、専門的な見地は、行政では持ちえないものであり、一方で、当課が有する広報のノウハウは、団体活動の下支えになったので、お互いの強みが活かした一年となった。
- 団体のメンバーや関係者との関わりを通じて、本事業以外にも連携できるような貴重なコネクションをつくるきっかけになった。
- 本事業内で実施した北区ニュースの特集では、各所からの反響が多数あり、団体が制作の大部分を担当したことで、北区広報物のデザイン向上にも繋がった。

④ 協働事業の成果

- 事業目的が「多世代間の交流」や「地域コミュニティの再生」など抽象的なものであり、単年度で成果が出る性質のものではないため、初年度は団体の取り組み自体に着目して、当該活動の広報をするという形で携わった。
- 広報の方法として銭湯のPRだけにしないよう、引き続き、銭湯を核としたコミュニティ形成という目的に合うようにサポートしていきたい。
- 行政にはない部分である団体の持つ機動力、行動力を活かせるように、主管課として柔軟な対応を心がけていきたい。

⑤ 全体を通して

- 本件事業のように、課題や目的について理解・共感ができるものであっても、その解決方法が何たるかが一様に定めにくい事業は、社会実験的に活動をしなから試行錯誤していくしかありません。したがって、取組みの中で新たなアイデアが生まれたり、逆に計画通りに事が進まないことは多々あるかと思いません。そんな中、予算の用途や計画通りの遂行を拘束しすぎると、民間の機動力という強みが活かせません。原資が公的な資金であるとはいえ、民間と協働するという政策提案協働事業制度の趣旨を踏まえると、補助金の使い方については、もっと自由度が高さがあってもいいのではないかと感じました。

6. 選定委員会による評価（個々の選定委員のコメントの抜粋）

（1）起業するなら北区！起業・副業はじめの一步サポート事業

① 計画段階での取組みについて

- 女性が抵抗なく起業することによって地域が活性化されることは行政としても望ましいことと考えます。どのように事業を立ち上げることができるのかを知るによって自らの可能性に気づくことも多いと思うので今回の取組みはそのチャンスを広げることができたのではないのでしょうか
- 行政だけでは実現が叶わなかったマルシェの開催等、役割分担や協働としての取組みには、一定の成果があった様に感じます。他方で、当初予定していたターゲットの棲み分けという意味においては、必ずしも想定通りの内容には至らなかったのではないかと感じました。2年目以降の活動については、数字としての成果もさることながら、内容的な成果に期待したいところです。
- 多様なライフスタイルや働き方が求められる中で、起業・副業のはじめの一步のサポートは、ニーズに対応した取組みであると考えます。

② 事業の進め方について

- 事業の柱の一つとして掲げられた勉強会は、不活発な印象がありました。謝礼予算も35万円弱を残しており、充実した講師による育成プログラムの実施の観点から課題があったように見えます。
- マルシェや勉強会、交流会の開催に区の広報や参加希望者への周知など、担当課との連携をより密にすれば良いと思います。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

- マルシェ開催の周知を区が、勉強会などの場で区が実施の事業を紹介するなどがあり、協働の成果につながっていると思います。
- 一定の協働関係が実現していました。チャレンジメンバー数や開業届提出者数という指標のみに留まらずに社会開発の観点から協働が更に進化することを期待しています。

④ 協働事業の成果について

- チャレンジメンバー31名が刺激し合い、5名の開業届提出につながれたことは成果であったと思います。

- ・創業予備軍となるチャレンジメンバーを 31 名集めることができたこと、開業届を 5 名出すことができたことは、事業の大きな成果だと考えます。

⑤ 将来性

・彩結びさんの経験、人脈、実績を生かしながら、創業への思いや生活環境がそれぞれに違う参加メンバーに対する動機付けや交流の仕掛けづくりなど、さらなる工夫を凝らしていただきたいと思います。様々な課題をチャンスと捉え、ますます発展することを期待します

・本事業の目標（成果指標）は、チャレンジメンバー会員を年間 30 人、開業届提出者を 5 名を出すことなどではありますが、本事業の参加者それぞれの目的は様々であり、また経験を経るに従い変わってくるものだと思います。今後は、そうした個々のチャレンジメンバーの思いにどのように応えていけるのか、という新たな課題が生まれてくるのではないかと思います。本事業を進める中で見えてくる課題に対して、どのように対応し事業自体を発展させていくか期待しています。

(2) 銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり

① 計画段階での取組みについて

・銭湯は歴史的財産となりつつありますが、現実には民間の事業者であり、存続するためには経営が成り立たなければいずれ廃業は免れません。今回の取組みにより多くの区民や一般市民が地域における銭湯のコミュニティセンターとしての役割を見出し、今後も存続するための一助となれればと思います。

・スタート時の事業開始の遅延を認識しつつプログラム運営を適宜修正しながら、よりよいものに高めている点は素晴らしいと思います。

② 事業の進め方について

・銭湯と言うと個人事業主を相手にすることになり、団体独自では難しい分を区と情報を共有し、意見交換しながら事業を進められたことが、成果につながっていると思います。

・銭湯のポテンシャルを、北区のシティプロモーションにつなげた好事例だと思います。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

- 銭湯というコンテンツが地域をプロモーションしていくために関心が高そうなこともあり、行政として取り組みやすかったのではないかと思います。また、区報に大きく取り上げたりケーブルテレビでの番組提供など区と協働することによって得られた成果は大変大きいものとなりました。事業者が新聞という形態をとって各銭湯ごとに広報したことも多くの興味関心を引き出したと考えられます。

- 団体が持つ専門的な点は区では無理があると思いますが、2月発行の北区ニュースは当事業の特集号で、協働の大きな成果だと思います。

④ 協働事業の成果について

- 「多世代間の交流」や「地域コミュニティの再生」に着目した活動としては、成果の期待が大きな事業だと思います。

- 区民の興味関心を高めることにはつながったと思いますが、実際に事業に参加していただける方が少ないことに対する原因を検討し、今後は人々の集いの場としての銭湯を演出していただければと思います。

⑤ 将来性

- 区と銭湯の関わりについて、シティブランディングが主体的に関わっていますが、「地域コミュニティの再生」や、「多世代間の交流」が本協働事業の目的とするのであれば、今後は切り口を変えた部署が関わっていくことで、より広がりのある事業展開が見込めると思います。

- 報告会でも述べられていた様に、種まきとしては一定の成果が出たのではないかと嬉しく感じました。2年目以降は、銭湯の活用と銭湯の再生をどう関連付けていくかということを工夫しながら活動していく必要があると感じます。期待値を込めてB判定としました。

令和5年度 北区政策提案協働事業報告書

令和6年12月10日発行

刊行物登録番号
6-1-073

東京都北区地域振興部地域振興課
発行 東京都北区王子一丁目11番1号
電話 5390-0093 (ダイヤルイン)